

平成29年度町民と議員との懇談会(5月開催)における町民からの意見・提言集計
(取扱区分順)

全 地区

取扱区分
A:町に対し要望する事項
B:町民に対し説明が必要なものとして伝達する事項
C:議会で取り上げる検討事項
D:会場で説明、回答した事項

開催日、開催時間、開催場所、参加者数:別紙のとおり

NO	地区NO	町民からの意見、提言等	地区	性別	答弁の内容	取扱区分	担当課	町回答
23	身延5	身延中と南部中と比較して南部中のほうが生徒が8人多い。人口比から言えば逆。学校統合の影響もあると思うが、子育て支援は頑張っていると思うので、町の施策をしっかりと練る必要があるのではないか。	豊岡	男	久那土小の卒業生7人の内、一人だけ身延中、一人は甲府の学校、5人は六郷中へ行った。それも施策の反動の一つ。子育て支援についても、入学祝金は支度金なので入学前に支給を望んでいる。	A	学校教育課	学校教育に関する町独自の施策については、ご意見をお聞きしながら必要に応じて見直しを図ります。 入学祝金については、平成30年度入学対象者から前年度末までには受け取りが可能となるよう制度の改正を進めます。
26	身延8	自然の里の経費を少しでも削って、インバウンド事業の一環で観光資源事業として宿泊客の移動に際してタクシー運賃の助成ができないか。	大河内	女	予算も伴うので、町に対して提案することを考え、議員全員協議会の検討課題としたい。	A	観光課	自然の里の事業について、経費の節減には気を配って運営したいと考えております。 町の公共交通の活用も含め、政策室と検討してまいりたいと思います。
28	身延10	観光の町づくりのため、専門的知識を持った人材を職員として配置すべきではないか。(意見)	豊岡	男		A	観光課	現在国や県でも観光行政に非常に力を入れている状況です。ご意見として承りたいと思います。
30	身延10	中学生の通学援助は全体的に考えられないのか、特に豊岡地区の生徒は自転車通学をしているが危険性があるので検討していただきたい。	豊岡	男	来春、身延小と大河内小の統合で一段落するので、全体的な通学支援を求めていきたい。	A	学校教育課	通学に対する様々な不安を全て、一気に解消することは難しく、全ての要望に漏れなく対応することは困難です。 これまでどおり出来得る範囲で通学路の安全性向上を図り、保護者や地域との協働を模索しながら、通学路安全推進会議やスクールバス安全運行会議でアイデアも頂き、現実的な対応について検討を行います。
34	身延13	身延町は消防団システムが遅れている。消防団員は減ることはあっても増えることはないと思うので、情報整備として、スマホに水利確保のための水利地点表示のアプリを提供することが出来ないか。(要望)	身延	男		A	総務課	現在各分団で地図を作り共有してもらっています。 アプリ等の導入提供については、今後検討していきたいと思います。

NO	地区NO	町民からの意見、提言等	地区	性別	答弁の内容	取扱区分	担当課	町回答
35	身延13	町内観光地でシーズン中に災害があったとき、死者多数の場合を想定することも必要ではないか。他町を視察したときダンボールの棺桶があった。身延町でも考えられないか。(要望)	身延	男		A	環境下水道課	最大120体を収納できる袋(二重になっており、分離できる)を保管しています。棺桶ではないが、緊急対応は可能と考えています。
43	中富7	伊沼地区は獣害防止柵が無いので獣害除けとして犬を飼っている。不妊手術に費用が掛かる。伊沼地区は作物を作っていないから柵を作ってもらえない。柵を作るよりずっと安上がりなので助成してもらえるとありがたい。	原	男	今はそういう制度はない 今後の検討課題。	A	環境下水道課	山梨県では甲府市のみが助成制度を施行しています。近隣市町の動向をみながら、今後検討していきます。
45	中富9	地震で身延断層が危ない。熊本地震を教訓に川筋にある集落は孤立する。大規模災害ではこの地域だけ助けに来てくれない。食料、避難経路の確保、孤立した集落をどのように助けるのか。避難所は退去期限がある対処を考えてほしい。空き学校の活用方法、国や県の対処を待っているのではなく身延独自の防災計画を立ててほしい。	下部	男		A	総務課	町では、平成29年度より備蓄食料などを追加購入し、備蓄倉庫や閉校後の学校の空き教室への備蓄を考えております。今後も身延町地域防災計画に基づき、町民の皆様を災害から護り、災害を最小限に抑えるための諸施策を講じて参ります。また、8月22日には町内のドローン製造メーカーと災害時の支援協定を締結し、孤立集落への物資搬送や情報収集などに、ドローンによる支援が可能となりました。 各家庭、自主防災組織におきましても、自助・共助で先ず自分たちの身を守ることをお願いいたします。
2	下部2	「みのぶ自然の里」の現状はどうか。活用できるのか。素人目にもおかしい。			「なかとみ青少年自然の里」は県からの無償譲渡から始まっている。利用対象を青少年でなく一般利用向けにして、観光情報発信基地にするというのが、町の説明である。国の地方創生推進交付金支給の申請が認められなかったために、建物の改修、人材募集、指定管理者の選定等が遅れたために当初決めたスケジュールの変更が必要で、事業が停滞している。町がいうようにスムーズに進められるのかという疑問があるので反対している。	B	観光課	現在改修工事等進めており、年内の秋頃にはオープンしたいと鋭意準備を進めております。町民の皆様にもご活用いただきますようお願いいたします。
3	下部3	場所としては悪くないが、アクセス道路にも問題があり、日本中で施設を作って人を呼ぶという事業を行っているが、「みのぶ自然の里」を成功させる何かがあるのか。スタートしてしまうとやめることが出来ないのか、今のうちにやめた方がよいと思う。			地方創生事業というのは、国の交付金と同じ額を地方が負担しなければならないという制度だから、事業をすれば、当然のように町の負担も増えるということになるので、万一、失敗した場合のことを考えて反対しているが、今の議会は賛成する議員のほうが多いので仕方ないと思っている。	B	観光課	身延町の里山の自然と本栖湖畔の水辺の自然を活用した運営を行うために、NPO法人みのぶ観光センターが指定管理の受託者として、運営していただける事となりました。 今までは青少年を対象とし、これからは一般の方や訪日外国人(インバウンド)も受け入れる予定です。 指定管理者と協力し、町の自然を活かした、ここでしかできない体験プログラムや、しだれ桜・ホテルの鑑賞ツアー等の自主企画事業を実施するなど、利用者の増加を図り、観光振興など町の活性化に努めて参ります。

NO	地区NO	町民からの意見、提言等	地区	性別	答弁の内容	取扱区分	担当課	町回答
4	下部4	副町長を置いたということだが、今の身延町に副町長はいらないと思う。「みのぶ自然の里」の問題だが、町には現代工芸美術館などいろいろな箱モノがあるが、一つでも黒字のものがあるのか。そんな中で、また新たに「みのぶ自然の里」のような施設をつくって黒字になることはないと思う。			「みのぶ自然の里」については、人口減少に歯止めをかけたいということで町が考えたことだが、3年間は交付金でやっていくということだったが、初めの提案は、行政の準備不足だと考えたので、もっと内容を煮詰めて提案すべきだと反対したが、その後、行政側が町長を先頭に熱意をもって過疎化に歯止めをかける、何もしないで待っているわけにはいかない、できる限りのことをしたいということで、初めは、観光課と政策室だけだったが、その後、全課全職員が一丸となって取り組んで何とか成功させたいという思いが伝わってきたので賛成した。しかし、「みのぶ自然の里」の運営は非常に難しいと思う。特に、客商売は大変難しい。客商売、サービス業が一人前にできればどんな仕事でもできるといわれている。そのくらい難しい。行政マンがやるというのはとても無理だろうと思っていた。いずれ指定管理者に委託すると思うが、最近NPO法人の観光センターの総会があり、「みのぶ自然の里」の指定管理者に応募することが決まった。担当者としては、7人でうち一人は町の職員で他の6人は観光センターの職員だが、若手の有望な人たちだ。いずれにしても、何もしないでいるわけにはいかない。町は、努力すれば何とかなる。なせば成るという気持ちでやっている。	B	総務課 生涯学習課 観光課	地方自治法第161条では、「都道府県に副知事を、市町村に副市町村長を置く」と規定されており、身延町副町長の定数を定める条例に基づき副町長を置くものです。現代工芸美術館については、平成25年度からの3年間の支出総額は7633万7千円、入場料等の収入は325万8千円で、3年間で約7300万円の財源を投入しています。今後、設置目的をも勘案する中で活性化にどのように繋げていくか調査研究を進め、親しみのある施設づくりに心がけてまいります。 みのぶ自然の里については、指定管理者と共に、経費の削減など効率的な運営や、様々な媒体によるPR、町の自然を活かした魅力的な自主企画事業の実施等により、利用者の増加を図り、黒字化を目標に取り組んで参ります。
5	下部5	そういう答えを聞きたいという思いで、初めに聞いたのだが、普通の人を考えれば反対するようなこの事業を、町の職員が全員賛成しているから、あるいは町長が熱意を持っているから賛成したということだが、そんな理由で、この事業を進めていいのか。前の町長はやめたし、職員もどんどん代わっていく。収支が分かるのは5年、10年先だと思うが、収支が悪かった時には町民にツケが来る。だれが責任をとるのか。我々町民は責任を取れない。そのことを考えると心を鬼にしても反対すべきだ。気持だけでやっていくのは、簡単だが、そんなことで行政を進めてはいけない。失敗したときには、賛成した議員が金を出しあって責任をとることが出来るのか。ここに総合戦略というものがある。これに何千万円もかけて、元が取れたのか。ここに書いてあることは、極端な話をすれば、他の町のものコピーしても10日もあれば作れるようなものだ。この程度のものに何千万円もかけた。それと同じことがこれから起きるのではないかというのが心配なのだ。だれも責任を取らないようなことはダメ。何もしないよりはやった方がよいというのも、一般論としてはわかるが、町長が私財をなげうってでもやるのならいいが、そうでなければやらない方がよい。職員7人で目に見えるような成果があげられるのか。この人たちには責任を取れない。この話は、全員が無責任なのがよくない。こんな事業は明らかに失敗すると思う。今からでもこの事業はやめたほうがよい。真剣によく考えてもらいたい。			町のことを心配しての熱意ある発言だと思うが、今言った町長というのは新町長のことで、職員7人は準備段階の仕事をする人たちのことだ。事業が始まればもっと多くの職員が働くことになる。リスクが大きいというが、どんな事業でも始めるのにはリスクが伴う。何もリスクがないというようなものはない。やれば必ず利益が上がるような事業は何もない。リスクを背負いながら努力しながらそのリスクを乗り越えていく。失敗したらだれが責任を取るのだと言ったら町長が責任をとることになると思う。	B	観光課	身延町の自然を活かした自主企画事業や町の観光施設等と連携した事業を実施する事などにより、みのぶ自然の里の利用者の増加を図り、身延町に多くの方々を訪れて頂き活気が出るようにしたいと思っております。
6	下部6	町長が責任を取ると言っても町民にツケが回ってくる。町長が自分の金を出すのか。総合戦略にしても「みのぶ自然の里」にしても町民全体に示してほしい。			我々も真剣に考えている。世の中には成功事例もある。	B	観光課	自然の里事業が成功するよう努力して参ります。

NO	地区NO	町民からの意見、提言等	地区	性別	答弁の内容	取扱区分	担当課	町回答
7	下部7	この提案は6対5で可決している。極めてきわどい採決でおっている。この事業について、コンセプトは何か、ターゲットはどういう人たちなどをコンサルタントに相談して練り上げているのか。そういう懸念があるので、心配している。中部横断道を活用して静岡方面からの入客を図るとか考えてほしい。			前町長、新町長のことが話題になったが、「なかとみ青少年自然の里」については議会でもずっと心配してきた。県と町で負担してやってきたがずっと赤字経営だった。県から無償譲渡されるから何かに利用しようという発想でやったのか、無償譲渡するから何かに使ってくれという県からの提案だったのかかわからないが、前町長が辞めた去年の9月議会で提案された事業なので、私は前町長の置き土産を新町長が受け継いだのだと考えている。いずれにしても赤字経営できた施設を受け継いで、結局、町民の負担になるのはよくない。町民の負担を減らすことを考えないといけないということで、反対している。	B	観光課	みのぶ自然の里は、町の豊富な観光資源を活用し、民間観光事業者等と連携し、都市と農村の地域間交流を促進することにより、観光客の増加、町民への憩いの場の提供及び、新たな雇用の創出を図り、町の活性化に寄与するために設置されています。身延町の本栖湖畔の水辺と自然の里の里山を最大限に活かし、また、町内の観光施設等とも連携してまいりたいと思います。静岡・神奈川方面は勿論ですが、中部横断自動車道を活用し、中部地方の方々にもPRしてまいりたいと思います。また、訪日外国人(インバウンド)の方々にも利用していただけるよう努めて参ります。
8	下部8	3年前には、ここに若い人たち50人もの人が集まって活発な意見交換が行われたが、学校統合が実施されて、今はこういう状況になっている。今年、久那土小を卒業した7人のうち身延中に1人だけだと聞いている。議員は、町全体の代表だと思いが、今の議会はそうではないように感じられる。廃校利用について何もビジョンがないようだが、地域計画で、地域の声をもっと聴いて進めてほしい。具体的に何をするのかを示されていない。学校は地域の宝なので、どこかの会社などに簡単に売り飛ばしてしまうようなことは考えてほしくない。ここに住んでよかったという気持ちになれるような夢のあるビジョンを示してほしい。周辺の県に議員が出て行って、交流をしたらどうか。40年来の希望である「三沢一市之瀬トンネル」についても忘れないでほしい。下部町の過疎化が進行した原因であると思う。			いろいろな問題を提起してもらったが、もともと3町が合併してできたということで大変広い地域であるため難しい問題がいろいろある。それぞれの地域でそれぞれの問題がある。言葉でいうことはできてもそれを実現するのは難しい。地産地消ひとつとっても、身延らしさを出すといっても、たとえば、身延の弁当を作るといっても、「みのぶ自然の里」の食材に地元のものを使うといっても、何が身延らしいのかという問題がある。湯葉を使う、曙大豆でつくったものを使うとか、我々議員もいろいろ考えている。地方創生と言っても何をすればいいのかという問題がある。現在、「みのぶ自然の里」、クラフトパークのしだれ桜、曙大豆の6次産業化を3本柱で取り組んでいるが、はたしてそれが成功して何人の人が来てくれるのか。静岡や横浜と交流を深めてということも、こちらがその気になっても相手はその気にならなければどうにもならないとか、難しい問題があるように思う。池川さんの提案による買い物代行事業のような事業とか、ひとつひとつ解決していかなければならないと思っている。	B	政策室 建設課	義務教育を担うために設置された学校施設が、統廃合により行政財産から普通財産に移管した後の再利用については大きな課題だと捉えます。普通財産となった校舎等は、既存の形態で他の行政財産として活用するか、若しくは一般に利用者を求めたり、場合によっては売却等を検討します。いずれにしても、再利用の定まっていない空き校舎等について様々な観点から検討して参ります。「三沢・市之瀬間パイパス」につきましては、毎年県及び関係機関に整備要望活動行っています。
9	下部9	他町の学校に子供が行ってしまったということについて議員はどう考えているのか。これで本当に町づくりができるのか。			学校統廃合に反対してきた立場から言えば、学校がなくなれば子供は他町の学校に行くし、町としての魅力がなくなるのでダメだと主張してきたが、こういう結果になってしまった。結果的に下部地区には学校が1校もない状況になってしまった。学校のない町に子どものいる若い人たちが住めるのか。宅地造成しても家を建てる人がいるとは思えない。	B	学校教育課	来年度からは3小学校・1中学校体制で、平成32年度(中学校は平成33年度)に施行される次期学習指導要領に基づき、児童生徒の生きる力(知力・体力)を効果的に伸ばしていける教育を積み上げていき、児童生徒に自分の住む町の学校を選んでもらえるよう努めます。
10	下部10	身延中に通わせるのには抵抗があったので、他町の学校に行けるようにと請願を出して認めてもらった。六郷中は近いし、みんなでまとまって自転車通学をしている。時間をかけて身延中に通っている子どもに比べ、安心できる環境で自分の時間帯で帰ってこれるといのが子どもにはうれしらしい。			学校統廃合で、皆さんには大変苦勞を掛けたと思っている。六郷中では通学バスがないので、通学手段を心配していたが、自転車通学に心配はないのか。町の子どもが町の学校に通えるような中学校づくりに努力していく。	B	学校教育課	No.9の回答どおり

NO	地区NO	町民からの意見、提言等	地区	性別	答弁の内容	取扱区分	担当課	町回答
11	下部11	地産地消の話が出たが、今日配られたこの水のボトル、これは身延町のものではない(ダイドードリンコ製)。身延町にも水を作っているところがあるはずだから、町で使う水は、身延町産のものを使うということを考えないといけない。地産地消とかふるさと創生だとか言っても結局、絵に描いた餅にすぎないということになる。			今、町内でミネラルウォーターを出しているのは、下部温泉の源泉館だけである。	B	観光課	現在、町としてはノベルティーとして配っている水のペットボトルは2種類あります。 1本目の「身延山」は富士ミネラルウォーター(株)が吉田で作っており、身延山ロープウェイから購入しています。 もう一種類「神水」は株式会社源泉館GSKで作っており、町の水として観光キャンペーン等でPRに使っております。
13	下部13	最後に町民予算で事業を始めようとしている池川さんから事業について聞いた。 ・町民予算を利用して「ぬくもりの会」というのを立ち上げた。現在、準備中だが、この会はやっとした困ったことを手助けするというもので、専用の携帯をセットし、電話してもらえば会員の誰かが対応するという仕組みで、極めて簡単なものである。 ・相談する電話番号などを書いたチラシを今作っている。最初にメンバー登録するというので、ハガキも用意して全戸に配布する予定である。 ・全体の構想は出来上がっているが、実際に動いてみないとわからないこともあるので試行錯誤しながら進めるということになる。 ・チラシは6月末までに配布できるようにする予定である。この事業が必要かどうかのアンケートになる可能性もある。 ・半年くらい経てばその結果が報告できると思う。現在22名いるが、できるだけ多くの人に手伝ってもらいたいと考えている。 ・何歳からお年寄りかということはよくわからないが、自分で運転できるという人には参加してもらいたいと思っている。若い人でも障害などで手助けが必要な人もある。助ける人と助けられる人がいて、よい町になると思う。 ・これは無償でなく有償のボランティアでやる。そうでないと、町からの予算を毎年もらえるわけではないので継続することが出来ない。				B	政策室	回答不要
17	身延1	みのぶ自然の里の三年間の交付金が出る期間後、立ち行かなくなったときには撤退する事も考えておいてほしい。(意見)	豊岡	男		B	観光課	現在はオープンに向けて施設を改修しております。指定管理者と共に、利用者の増加を図り、黒字化を目標に取り組んで参ります。
20	身延2	身延駅から身延山までさわやかウォーキングのコースだが、大野トンネルを抜けると汚い。観光立町と言ってるのなら、今の資源も大事にして、道沿いを綺麗にしたらどうか。(意見)	身延	男		B	建設課	旧大野トンネルから県道までの間と思われませんが、草刈りや路面清掃は、実施しています。
33	身延12	この懇談会に若い人が参加するような努力をお願いしたい。(要望)	豊岡	男		B	議会事務局	議会運営委員会と協議します。